

第6学年学級活動学習指導案

日時 平成18年11月22日(水)5校時
児童 6年1組 男12名 女10名 計22名
指導者 藤原 学

1 単元名 男女の役割について考える ~自分らしく生きる~

2 単元について

(1) 児童について

児童は明るく元気で、男女仲よく協力して活動することができる。お互いを認め合うために言葉遣いを直すことから始め、物を渡すときには「どうぞ」もらうときには「どうも」、名前を呼ぶときには「～さん」と呼ぶようにしてきた。また、友達の良さやその日ががんばったことを発表しあい、教室内に掲示してきた。このような日常的な取り組みを重ねることにより、クラス内の雰囲気も和やかになり、思いやりの心も育ってきている。

しかし、二次性徴を迎え、自分の体の変化とともに、男子は女子を女子は男子を意識し始め、相手をからかったり、わざと気を引くような態度をとったりする様子が見られるようになってきた。そこで、二次性徴期の心と体の成長を見通し、自ら新たな生命を生み出す力を持ち始めたことへの理解を深めるとともに、自他の生命を尊重し、「男」「女」ではなく、一人の「人間」としてお互いを尊重し合えるようになってほしいと願い、このテーマを設定した。

(2) 題材について

小学校段階における性教育の指導内容を、次の4点にしばって考える。

- 1 生命誕生の仕組みを知り、生きることの大切さ、家族や周囲の人々との人間関係についての理解を深める。
- 2 体や性の働きを理解し、プライバシーとして尊重し合い、「男」「女」という見方ではなく、一人の人間としてお互いを思いやる態度を育てる。
- 3 思春期の成長を見通し、自ら新たな生命を生み出す力を持ち始めたことへの理解と共に、その個性的な発達について受け入れていける考え方を育てる。
- 4 テレビ、マンガ、その他の性文化、性情報について批評、批判できる力を育てる。

これらの内容を「体」「命」「生きる」の3領域に分け、6年生では「命」と「生きる」について学習を進めていく。とくに「生きる」に関しては、古くからの社会制度や慣習の中にある、性差による偏見や差別による固定的な役割分担意識についてふれ、人々の行動や生き方が、性別によって方向付けられてしまい、様々な選択の機会が制約されてきたのではないかという問題点について、自分の性の立場から、自分なりに考えさせたい。

また、商品化された性や性差別、犯罪としての性など、ゆがんだ状況がメディアを通して報道されることが多くなり、児童も日常的にそうした現象や情報にふれている。したがって、そのような問題についても具体的に取り上げ、批評・批判の力を育てていきたいと考える。

(3) 人権教育の観点から

人権理解にかかわって

男女平等に関しては、男女一緒の生活班を中心に、様々な活動を男女協力して行うことを通し、お互いを尊重し合う気持ちを育ててきた。また児童は、5年生の時の学級活動で、エイズについて学習し、エイズという病気を理解するとともに、HIV感染者のライアン君の生き方を通し、どんな人間に対しても差別をせず、偏見を持つことなく接していくことが大切であることを学んだ。

本単元の主題である男女の性差による役割分担意識に関しては、「男だから～、女だから～」という意識を持って生活をしているわけではなく、周りの人から言われたときに、男女の性差による偏見に気付くものと思われる。そのために、知らず知らずのうちに、友達の気持ち

を傷つけることもあった。

そこで本単元では、命の大切さと男女の平等という2点を重点的に取り上げ、「男、女」という性差を取り払い、一人の人間として、周りの人間も尊重し大切にすることを育てたいものとする。

育てたい力について

「思考力・判断力」にかかわって

「性」「生」を自分自身のこととしてとらえさせるため、事前にアンケート調査を行って実態調査をするとともに、自己を振り返る場として、課題解決意欲を高めていく。

「表現力・行動力」にかかわって

授業では、具体的事例を提示し、グループ学習でお互いの意見を交流しあう。その際、自分なりにどう考えるか、その根拠も説明できるように指示をする。さらに単元を通して学習したことをこれからの生活の中で実践できるように、振り返りの場面で、プリントに学習感想を書かせ、発表しあうようにする。

「受容力」にかかわって

生命誕生のすばらしさを学習することを通し、お互いを一人の人間として認め、尊重し、自他の命を大切にすることを育てる。出産の様子の映像や、家族からの手紙など、具体物を準備して、その効果を高めていく。

(4) 指導にあたって

単元を通して、「命」「生きる」の2つの領域について、重点的に指導する。

「命」に関しては、出産・出生をめぐる母体と胎児の見事な関係に目を見張ると同時に、周囲の人々の喜びや期待、そして、一つの生命誕生のすばらしさに着目させる。自分の「生」が今ここにあるのは、たくさんの人々の支えによるものだと理解させ、自他の生命を尊重し、大切にすることを育てていきたい。

「生きる」に関しては、性をめぐる人間と人間の関係、社会と性など、自分という人間をそうした関係の中で見つめなおす機会とする。

10代の妊娠・中絶・出産の増加が懸念されている中、子供たちには生殖という営みの重要性とともに、それらに伴う身体的・社会的リスクに関する認識を持たせた上で、責任を持った自己決定というものを考えさせなければならない。これは女子だけの課題ではなく、妊娠・中絶・出産のすべてが男性にもかかわるものなので、男子にとっても重要な課題である。そこで今後の性教育は、個人の権利・自由・責任といった、人権教育の観点から行われる必要がある。

人間は成長するとともに、自己の生物学的な性別を基に、周囲の人たちが「女・男にふさわしい態度や行動」と考えている文化や規範を身につけていくことに目が向けられるようになり、人間とはこうしてできあがってきた「女性・男性」であると考えられるようになってきた。それとともに「女はやさしく、男は強く」「女は家庭、男は仕事」というように男性と女性のイメージや役割が固定的にとらえられ(ジェンダー)、人々の行動や生き方を性別によって方向付けてしまい、様々な選択の機会が制約されてきた。このジェンダーから解放される「ジェンダーフリー」の視点を取り入れた男女平等教育を進め、女だから男だからではなく、一人の人間としてより良い生き方、正しい生き方ができるよう指導していきたいと考える。

3 単元の目標

生命は連続するもの、かけがえのないものであることを理解し、一人の人間として自他の生命を大切にすることを育てる。

男女を問わず等しく個性ある人間としてお互いを尊重し、一人一人が自己の能力を十分発

揮できる資質や能力の基礎を培う。

ジェンダーという視点から現代の情報に触れ、情報メディアがどのような意味を構成しているのかを理解し、主体的、批判的に読み解く力を育てる。

4 指導計画

時	学習活動	評価規準
1	～生命の誕生～	(関心・意欲・態度)生命誕生について関心を持ち、自他の生命を大切にしようとする。 (思考・判断)学習を通し、自他の命を大切にするためにはどうすればいいか考えることができる。 (技能・表現)命のつながりについて、自分の考えを理由を明確にして話すことができる。 (知識・理解)生命は連続するもの、周囲の人々から大切にされてきたかけがえのないものであることが分かる。
2 本 時	思春期の心の変化 ～自分らしく生きる～	(関心・意欲・態度)学習を通し、「男だから、女だから」ではなく、一人の人間として、自分らしく生きていこうとする。 (思考・判断)自分にとってより良い生き方は何かを、自分の力で考えることができる。 (技能・表現)自分にとってのより良い生き方を、理由を明確にして話すことができる。 (知識・理解)社会や文化、歴史が作り出したジェンダーにより、「男は～」「女は～」と考えたり、無意識に男女差別をしたりしていることを知る。
3	いろいろな情報と 明るい生活	(関心・意欲・態度)いろいろな情報を取捨選択し、自分の生活に役立つ情報を進んで取り入れようとする。 (思考・判断)いろいろな情報の中から、自分に必要な物、より良い物は何かを判断することができる。 (技能・表現)性を商品化している情報に対し、女性差別の観点から、自分なりの考えを話すことができる。 (知識・理解)情報の中には、ゆがんだ情報、性を商品化した情報などがあることを知り、「性」の理解は人間にとって大切なことであるが、不合理な物については、批判する力、見極める力を持つことが大切であることを理解する。

5 本時の指導

(1) 目標

社会には性差による偏見があることを知り、それらの問題点を考えながら自分自身の良さを見つけ、自分らしく生きていくための見通しを持つことができる。

(2) 人権教育の観点から

人権理解を深めるためには、人権を特定の人の問題としてではなく、あらゆる人々の課題としてとらえさせ、「他人事の学習でなく」、「自分の生活や生き方と重ね合わせ」、「自らを高める場としての学習」が必要である。人権学習は、「思いやり」や「やさしさ」という心の問題だけでなく、具体的な人権の課題の学習を通してなされるものである。

そこで本時は、現代社会に古くからある女性差別、「男だから」「女だから」という具体的な事柄に触れ、それでいいのかどうかを考えさせることにより、人権教育における現代の課題「男女平等」について学習していく。

人権感覚を高めるために、互いに認め合う場では、自分で考えた自分らしい生き方を交流

しながら、お互いの考えの良さを見つけ合い、アドバイスし合いながらグループ学習を進めていくようにさせる。

(3) 展開

段階	学 習 活 動	予想される反応 指導上の留意点・支援()	評価() 人権教育の観点
導入 8分	<p>1 これまでの自分の生活を振り返り、経験したことを交流する。 ・「男(女)だから～」「男(女)のくせに～」「男(女)らしく～しなさい」と言われた経験はないか。</p> <p>2 学習課題をつかむ。 男らしさ、女らしさについて考えよう。</p>	<p>・男だから、しっかりしろ。 ・女だから、やさしくしなさい。 ・男のくせに、泣くな。いくじなし。なさけない。 ・女のくせに、うるさい。はしたない。生意気だ。 ・男らしく堂々としなさい。 ・女らしい言葉遣いをしなさい。 事前にアンケートをとり、全体の場で発表してもよい内容について取り上げるようにする。 言われたときの気持ちにも軽くふれるようにする。</p>	<p>身近なところでも、「男、女」の線引きがあることに気づかせ、本時は、男、女としてどうあるべきか、そして一人の人間として自分はどうあるべきかについて考えていくことを確認する。 思考力・判断力</p> <p>学習課題を把握したか、音読で確認する。</p>
展開 30分	<p>3 現代社会や人間の心の中にある「男」「女」についての偏見や、差別について考える。 自分が経験した「男・女」についてのおかしさについて話し合う。 自分自身のジェンダーチェックをし、質問に同感する場合に を付ける。 1 男はたくましく、女はやさしくしたほうがいいと思う。 2 男が泣くのはみっともないと思う。 3 料理が得意な女の人、いい奥さんになれると思う。 など、全部で5つの項目について同感するかどうかチェックする。 男女の差別がなくなったものについて考える。 ・身近なところで、あるいは社会の中で、男女の差別がなくなったものはないか。</p>	<p>どうして(どこが)おかしいのか、どうして(どこが)いやなのかについて、全体の場で意見交流をし、話し合う。</p> <p>世の中で当然のこととされている内容について、自分の中にもジェンダーバイアス(性別に基づく固定的な決め付け)があることを、ジェンダーチェックをすることによって気づかせる。 ・自分の気持ちの中にも、男は～、女は～という考えがある。</p> <p>・看護婦さんが看護師(男性も)と呼ばれるようになった。 ・保母さんが保育士(男性も)と呼ばれるようになった。 女性の消防士さんや男性の保育士さんの写真を提示し、職業で男性、女性の線引きがなくなったものがあることに気づかせる。</p>	<p>全体の場で、「男(女)だから～」「男(女)のくせに～」と言われた時の気持ちや、そのおかしさについて共感しあう。受容力</p> <p>世の中には、「男はこうであるべき、女はこうであるべき」ということがたくさんあり、自分の気持ちの中にも、知らず知らずのうちに「男、女」の線引きがあることに気づかせる。 思考力・判断力 ジェンダーチェックで自分の姿が分かったか。</p> <p>男女の線引きがなくなってきたものに気づき、社会の動きが少しずつ変わってきたことについて自分なりに考えさせる。 思考力・判断力 友達の発表や資料を通し、男女の差別がなくなってきたものが分かったか。</p>

	<p style="text-align: center;">自ら考える場</p> <p>現代社会や自分の心にもあるジェンダーバイアス、それにもかかわらず自分らしく生きている人たちのことを知り、これから自分はどうのように生きていくのかを考える。</p> <p style="text-align: center;">互いに認め合う場</p> <p>一人一人が考えた自分の生き方をグループで交流し合い、お互いの生き方について考え、そのよさを認め合う。 グループでの意見交流の様子や、自分らしく生きようと考えている友達の姿を、全体の場でも交流する。</p>	<p>学習したことを通し、男だから女だからということではなく、一人の人間としてどう生きていきたいか、自分なりに考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の良さは明るく元気なところなので、大きな声であいさつや返事をし、明るいクラスを作っていきたい。 ・ぼくは小さい子供が好きなので、保育士さんになって子供たちに囲まれて仕事をしたい。 <p>それぞれが考えた自分なりの生き方を交流することにより、男、女で生き方を決定するのではなく、自分らしく生きることが大切であることに気づかせるようにする。</p>	<p>学習内容を自分のことに置き換え、これから自分はどうのように生きていくことが一番なのか考える。</p> <p>思考力・判断力 自分らしさを知り、自分らしく生きることの大切さに気づく。</p> <p>表現力・行動力</p> <p>友達が考えている生き方を知り、自分に参考にできることはないかを考える。 受容力 自分らしく生きることの大切さに気づいたか、プリントで確かめる。</p>
<p>終末 7分</p>	<p style="text-align: center;">学習を振り返る場</p> <p>4 学習を振り返り、本時のまとめをする。 7 今日学習を通して感じたことや、これからの生活に生かしていきたいことを自分の言葉でまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントに書かせ、発表させ、お互いの感想を交流しあう。 ・次の時間には、社会にある差別的な見方について学習することにふれて、次時の予告とする。 	<p>今日の学習を通し、自分にある「男らしさ、女らしさ」を生かし、自分らしく生きることの大切さに気づかせるようにする。</p> <p>表現力・行動力</p>

(4) 評価

社会には性差による偏見があることを知り、そのことにとらわれず、自分の良さを知り自分らしく生きようという意欲が高まったか。

6 板書計画

男らしさ、女らしさについて考えよう		写真
男だから～ 女だから～		写真
男のくせに～ 女のくせに～	・ジェンダーチェック	
	1	
男らしく～ 女らしく～	2	
	3	
・言われたときの気持ち	4	
	5	